

# 水産庁遠洋水産研究所

## 要 覧



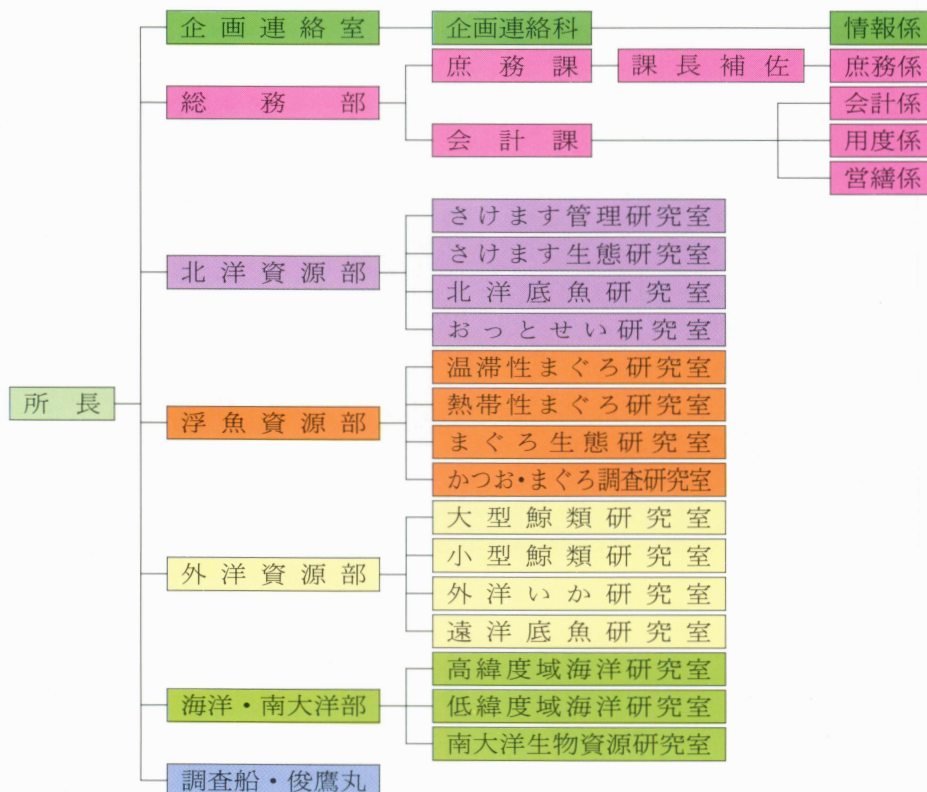
〒424 清水市折戸5丁目7-1  
電 話 0543-34-0715 (代表)  
テレックス 03965689 FARSEA J  
ファックス 0543-35-9642 (GⅢ)



# 沿革

昭和42年 8月	水産庁遠洋水産研究所の設立
昭和43年 4月	企画連絡室の設置
昭和44年 4月	総務部の設置
昭和45年 5月	北洋資源部函館市より移転
昭和58年10月	南大洋生物資源研究室の設置
昭和59年 4月	組織改変による底魚資源部、海洋・南大洋部の設置
昭和63年 4月	大規模な組織の改変

# 組織



職員数 (平成3年10月1日現在)

行政職 (一)	16名	研究職	49名	
行政職 (二)	1名	海事職	24名	総職員数 90名

## 北洋資源部

北太平洋は漁獲量が世界で最も多い海域である。この海域における生態系に大きな位置を占めているさけ・ます等の溯河性魚類、スケトウダラ等の底魚類及びオットセイの資源管理に必要な情報の収集や生物特性の研究を行うことにより、我が国の北太平洋における遠洋漁業の維持、発展に大きな役割を果たしている。



自動鱗読装置

### さけます管理研究室

寒流系の遠洋浮魚類の資源管理に関する調査研究。

### さけます生態研究室

寒流系の遠洋浮魚類の生態に関する調査研究。

### 北洋底魚研究室

北太平洋における遠洋底魚類の資源、生態、資源管理に関する調査研究。



船上での底魚調査

### おっとせい研究室

鰭脚類の資源、生態、資源管理に関する調査研究。



電波発信器をつけたオットセイ

# 浮魚資源部

遠洋浮魚類のうち、主として、世界の暖流系水域に広く分布し、高度に回遊して生活するまぐろ、かじき類の各資源について、生態、資源動態に関する研究を行い、国際的資源管理方策の科学的基盤を与え、我が国漁業の安定に寄与している。

## 温帯性まぐろ研究室

クロマグロ、ミナミマグロなどの温帯性遠洋魚類の資源及び資源管理に関する調査研究。

## 熱帯性まぐろ研究室

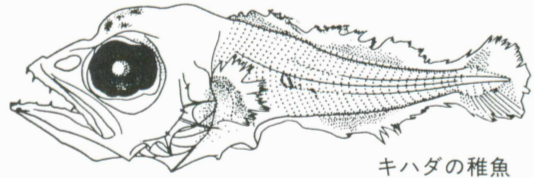
キハダ、メバチなどの熱帯性遠洋魚類の資源及び資源管理に関する調査研究。

## まぐろ生態研究室

暖流系の遠洋浮魚類の生態に関する調査研究。

## かつお・まぐろ調査研究室

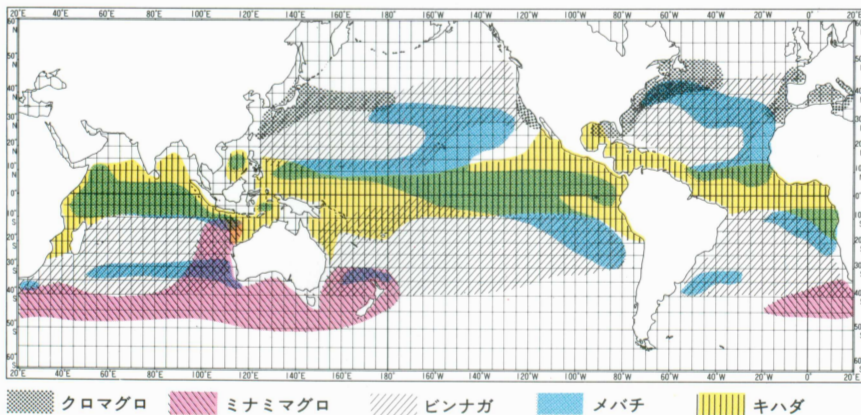
かつお・まぐろ類の主要水揚港である焼津に置かれ、これら遠洋魚類の生物情報の収集、解析、漁場評価に関する調査研究。



キハダの稚魚



焼津港におけるかじき類調査



まぐろ類の分布



# 外洋資源部

研究対象が鯨類、遠洋水域のいか類と底魚類等広範にわたり、これらの資源に対する研究需要は非常に高く、科学的調査研究活動を通じて我国の遠洋漁業の維持発展に寄与している。

## 大型鯨類研究室

ミンククジラ、ツチクジラなどの大型鯨類の資源、生態、資源管理に関する調査研究。



ナガスクジラの噴気

## 小型鯨類研究室

スジイルカ、イシイルカ等の小型鯨類の資源、生態、資源管理に関する調査研究。



トロール漁船の操業

## 外洋いか研究室

アカイカなどの外洋におけるいか類の資源、生態、資源管理に関する調査研究。

## 遠洋底魚研究室

まあじ類、あかうお類、えび類、いか類などの北太平洋を除く遠洋底魚類の資源、生態、資源管理に関する調査研究。



調査船によるアカイカ流し網調査での羅網状況

## 海洋・南大洋部

海洋生物資源は海洋を生活の場とし、その分布、回遊、豊度等は海洋環境に大きく支配されている。従って海洋生物資源の現状を評価し、その将来を予測して、適正な管理を行うには、海洋環境の構造とその変動を把握する必要がある。まして海洋生物資源研究が魚種別対応から生態系へと総合化しつつある現在、生物の生存の場としての海洋研究はますます重要性を増している。当部は、全地球的な視野に立って海洋の研究を行い、その物理・化学環境変化から低次、高次食物連鎖段階に至る海洋生態系の構成要素の研究の場を網羅して、海洋生態系の総合的研究を推進している。

### 高緯度域海洋研究室

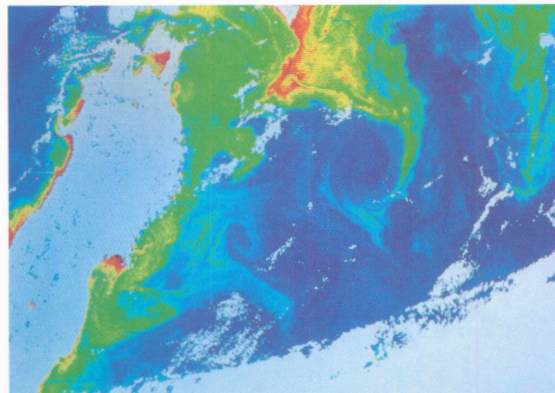
高緯度海域の海洋動態及び生物環境に関する調査研究。

### 低緯度域海洋研究室

低緯度海域の海洋動態及び生物環境に関する調査研究。

### 南大洋生物資源研究室

南大洋におけるおきあみ類の資源、生態、資源管理並びに生態系に関する調査研究。



人工衛星による植物プランクトンの分布図



簡易型DBT一式



ナンキョクオキアミ



# 調査船

## ■ 俊 鷹 丸 ■

所 属 当研究所

総 噸 数 393.44トン

機 関 主機 1,300PS×720R/M2基  
補機 365PS×1,800R/M1基

形 式 船尾トロール型



調査船・俊鷹丸

## ■ 開 洋 丸 ■

所 属 水産庁本庁

総 噸 数 2,630トン

機 関 ディーゼル/電気推進

主 機 関 3,500PS×2台

電気推進機関 1,100KW×1台

形 式 船尾トロール型



調査船・開洋丸

## ■ 照 洋 丸 ■

所 属 水産庁本庁

総 噸 数 1,362.9トン

機 関 ディーゼル 2,000PS 2基

形 式 通常調査船

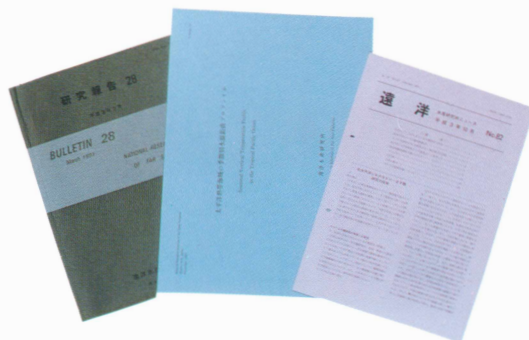
# 刊 行 物

## A. 定期刊行物

1. 遠洋水産研究所報告
2. 遠洋水産研究所ニュース
3. 各国際会議提出文書

## B. 不定期刊行物

1. 遠洋水産研究所Sシリーズ
2. 各種調査報告
3. その他



# 交通案内



1. JR清水駅下車、静鉄バス三保線、清水駅前より乗車、東海大学海員学校前下車、徒歩5分。
2. JR静岡駅下車、南口よりタクシーにて30分。
3. 東名高速道路清水インターチェンジより車にて20分。
4. かつお・まぐろ調査研究室へはJR焼津駅下車、徒歩5分。